

市 政 報 告

市政報告に先立ち、にかほ市名誉市民 巴 徳雄（のりお）氏のご逝去について申し上げます。

去る8月22日、にかほ市名誉市民である巴 徳雄 氏のご逝去されました。故人のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、衷心より哀悼の誠を捧げます。

故人は、長年にわたり仁賀保町長として、地方自治の進展と町政の発展に尽力され、にかほ市の礎を築かれるなど、市政の進展に偉大な功績を残されました。

ここに、改めて、ご生前のご功績に対し、深く敬意を表しますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げ、故人のご遺志を深く受け止め、にかほ市の発展に邁進して参ります。

最近の市政について報告いたします。

○ 新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルス感染症に関して、県内では7月5日より発生報告が上昇に転じ、7月26日には新規感染者数が1,284人に到達しております。

県ではこの感染拡大に対し、7月22日、感染警戒レベルを2に引き上げ、県民に徹底した換気の実施とクラスターの発生防止、基本的な感染防止策の実施などを要請しているところであります。

本市においては、7月13日に、約1か月ぶりに新型コロナウイルス感染者が発生し、以後、ほぼ連日発生報告が続いております。これに対し7月25日、新型コロナウイルス感染症対策本部会議を実施し、現状を確認のうえ、県に準じて徹底した換気の実施などを市民に要請しております。

市民の皆様には、換気などご負担をおかけいたしますが、重症化リスクの高

い高齢者への感染防止や、各種事業所・施設等でのクラスターの発生を防止するため、十分な対策を重ねてお願いいたします。

○ 新型コロナウイルスワクチン接種事業について

2月下旬から開始しておりました3回目の接種、いわゆる「追加接種」については、集団接種を5月までで一旦終了しましたが、市内の3医療機関での個別接種は、現在も引き続き実施していただいております。

4回目の接種につきましては、3回目のワクチン接種から5か月が経過した60歳以上の方と、18歳以上で基礎疾患を有する方が対象であったことから、7月18日から予約の受け付けを開始し、8月1日からスマイルでの集団接種を開始したところです。

7月に入り、新規感染者が急速に増加していることから、重症化リスクが高い方々に対してサービスを提供している医療機関や高齢者施設・障害者施設等の従事者も対象者として拡大されております。

国では、今後オミクロン株対応ワクチン接種を予防接種法に基づく予防接種に位置づけるとし、「特例臨時接種期間」を9月30日から延長する方向で検討されています。各自治体においては、その実施に備えた体制を整備することを指示されていることから、実施に係る補正予算案を今定例会に提出しております。

○ 大雨による農林水産業被害について

8月上旬から中旬の大雨による本市の農林水産業被害の状況は、農業関係については、8月24日時点で、大豆0.91ha、そば21.3ha、キャベツ1.48haが冠水などの被害を受け、農作物被害額は約300万円となっております。

被害は時間の経過とともに推移しますので、国・県の復旧・支援対策事業を注視しているところであります。

林道、および漁港関係については、特に被害はありませんでした。

○ 普通交付税について

今年度の普通交付税は、53億2,257万5千円と算定され、前年度確定額

に対し、1億607万4千円、1.95%の減となっております。また、臨時財政対策債は、前年度に比べ1億7,609万円、61.8%と大幅に減少しており、これらを合わせた実質的な交付額では2億8,216万4千円の減となっております。

交付額の決定に伴う歳入の補正予算案を今定例会に提出しております。

○ 市内の経済状況について

4月から6月の景況調査では、依頼した75社のうち81.3%にあたる61社から回答がありました。

前年同期と比較して「好転」が32社、「横ばい」が17社、「悪化」が12社と、全体として好転が続いています。

業種別にみますと、飲食・宿泊業では、前年同期比で「好転」が5社に対して「悪化」が3社となっており、県のプレミアム飲食券事業や市の飲食応援消費還元事業の事業期間であったことから、好転の兆しが見られますが、今後の感染状況の影響が懸念されるところです。

小売・サービス業では前年同期比で「好転」が6社、「横ばい」が4社、「悪化」が4社で、前年に比べて景況は悪化しつつあります。しかし、おでかけレストラン事業の商品券が8月に市内で利用されることによる景況の変化に注視しております。

建設業では、前年同期比で「好転」が3社、「横ばい」が4社、「悪化」が1社で、DI値は25.0%となっており、好調さが続いております。

主力の製造業は「好転」が13社、「横ばい」が6社に対し、「悪化」が4社となっており、材料費やエネルギー費高騰の影響はあるものの、全体としては好調な企業が多く、業況は堅調さを維持しております。

○ 若者支援住宅の整備について

6月定例会において補正いたしました、PFIアドバイザー業務については、7月末に委託契約を締結し、今後、より精度の高い「要求水準書」を整えられるよう、調整を進めております。

要求水準書の作成に関しての法令等との照合や、まちづくりとして整備していく観点から、各種協議・調整が必要であること、また昨今の原油価格の高騰や物価高を受けて、市場の動向を踏まえながら詳細な状況把握が必要であるこ

とから、整備事業本体の債務負担行為の設定を12月定例会に提案できるよう、業務を進めて参ります。

○ ふるさと納税について

令和4年度のふるさと納税は、7月末時点で件数が7,398件、寄付額は前年度比14%減の1億1,504万5,000円となっております。

返礼品のバリエーションの充実や、寄付者に対する迅速かつきめ細かな対応はこれまでも心掛けて取り組んできており、複数回の納税者、いわゆるリピーターの数は確実に増加していることから、新規顧客の数が減少していると分析しております。

例年、年末に寄付者が増加傾向にありますので、既存商品のブラッシュアップや時節のニーズを捉えた新規返礼品の開発に取り組み、更なる寄付の増加に向けた取り組みを進めて参ります。

○ 移住・定住の促進に向けた取組みについて

7月23日に「新・農業人フェア」、翌24日に「東北移住&つながり大相談会」が東京都内で開催され、首都圏在住の移住希望者へにかほ暮らしの魅力をPRすることを目的に、本市からブースを出展しました。

特に「新・農業人フェア」では、高校生から高齢者まで15人の方々から、就農等に関する個別相談を受けており、本市の主要作物の紹介や支援策等を丁寧に説明するなどして、参加者から好感触を得たところです。9月と10月にも首都圏での移住イベントが開催予定であり、引き続き本市への移住をPRして参ります。

また、今年度に入り、移住に関する動きが活発化しております。昨年の4月から7月までの4か月間の移住希望者登録数が13件だったのに対し、今年度は9月時点で20件となっており、現在も移住相談が多く寄せられております。今後の移住者の増加が期待されるところです。

また、移住者の住居について、移住希望者のニーズに見合った賃貸住宅や空き家の確保が難しい状況となっております。移住者の中には、テレワーク移住や二拠点居住など、ウイズコロナを反映した多様な移住スタイルも見られますので、今後も空き家の掘り起こし等に取り組んで参ります。

あわせて、移住者の方に寄り添うことが大切であることから、3人の移住リエゾンによる子育ての相談や街並みの案内などのほか、地元での定住イベントの開催や情報発信についても引き続き精力的に実施して参ります。

○ にかほ市飲食応援消費還元事業について

市内飲食店での店内飲食や、テイクアウト等により飲食店を応援する「おでかけレストラン・おうちでレストラン」は、6月30日でスタンプ押印を終了し、本日8月31日で還元商品券の使用を終了いたします。

8月25日時点で、スタンプカード24,320枚を受け付けており、参加した市内飲食店においては、全体で1億5,761万円以上の売り上げに繋がっております。なお、利用された市民等への還元商品券の発送総額は7,296万円となっております。

○ にかほ市運送業等事業継続支援事業について

原油価格の高騰が経営に及ぼす影響が特に大きい運送業者等に対し、1事業者あたり最大300万円の支援金を給付する運送業等事業継続支援事業について、申請受付は10月までとなっておりますが、8月25日時点で、4事業者へ合計474万3千円を給付しております。

○ 市内の雇用状況について

ハローワーク本荘管内の有効求人倍率は、今年4月末時点では1.24倍、その後さらに2ヵ月連続で上昇し、6月末現在では1.36倍と前年同期比で0.22ポイント上昇しております。

電子部品・デバイス製造業の求人が高い水準で推移していることがその要因となっている一方で、事務職の有効求人倍率は0.74倍、建設・土木分野の有効求人倍率6.34倍となるなど、職種による偏りも生じております。

全体的として高い有効求人倍率を維持しておりますが、原材料費の高騰などによる景気の落ち込みが懸念されることから、雇用状況についても引き続き注視して参ります。

○ 高校生の就職状況について

来春の高校卒業予定者に対するハローワーク本荘での受付状況は、6月末現在、求人数が前年同期比で36人増の417人、求人を提出した事業所は7社減の81事業所となっております。

一方、管内の高校卒業予定者709人のうち就職希望者は263人となっており、前年とほぼ同水準の37%程度となっております。

就職希望地は県内が4人増の233人、県外は16人減の30人となっており、県内就職希望率は88.6%、前年比5.3%増で、前年より高くなっております。

県内就職希望率が高くなった要因として、秋田労働局では、コロナ禍の影響により、県内企業に目を向ける機会が増えたことを挙げており、また、管内の高校の進路指導の先生からは、「コロナ禍の影響もあるが、地元大手企業の求人が増えたことも大きいのでは」との声もありました。

○ 若者の地元定着について

7月14日に、ハローワーク本荘、由利地域振興局、由利本荘市等との共催により、由利本荘市のナイスアリーナを会場に本荘由利管内の高校3年生を対象とした「高卒求人情報説明会」を開催しました。参加した管内企業74社の人事担当者から、企業や求人に関する情報を得るなど、地元就職を目指す学生にとって貴重な機会となっております。

また、8月2日には、市内の小学生を対象に「夏休み親子職場見学会」を開催し、小学生の親子8人が市内5事業所を訪問して工場見学を体験しております。

さらに10月には由利地域振興局との共催により、地元企業約20社が市内の中学校に出向いて、2年生を対象とした「中学生と管内企業のふれあいPR事業」を実施する予定としております。

今後も市内企業の人材確保を支援するとともに、子どもたちに地元企業を知る機会を提供しながら、地場産業への理解を促進して参ります。

○ TDK硬式野球部の都市対抗野球大会出場について

東京ドームで開催されました第93回都市対抗野球大会に、本市代表・TDKが3年連続、17回目の出場を果たしました。

新型コロナウイルス感染症を防止するため、市民応援団の募集は行いませんでしたが、市内でパブリックビューイングを実施し、市主催の2か所及びTDK主催の1か所に、多くの市民が来場しチームを応援しました。

1回戦では、一昨年優勝のHondaを3対2で破り、2回戦ではJFE西日本に4対0で快勝し、2006年以来の8強入りを果たしました。

準々決勝では豊田市代表・Toyota自動車に0対3で敗れましたが、若さに溢れた全力プレーと、「オール秋田」によるスタンドからの全力応援は、地域に感動と元気をもたらしただけでなく、全国に「TDKファン」、「にかほファン」を生み、今後の更なる躍進を期待させるものでありました。

○ にかほ市防災行政無線強靱化事業について

現在、運用中の防災行政無線設備は平成23年度に導入したもので、老朽化による不具合も発生しております。

当該設備の更新のために昨年度基本設計を行い、年次計画によって更新作業を行うこととしており、当初予算にて今年度の更新作業分の実施設計を行っております。この実施設計に基づき、気象観測設備及び屋外カメラ設備などの更新を行うための補正予算案を今定例会に提出しております。

これらの設備更新により、より強靱で分かりやすく市民に情報が伝わる設備を構築し、有事における情報伝達の強化を進めて参ります。

○ 災害時におけるトレーラーハウスの提供に係る協定締結について

8月3日、災害発生時にトレーラーハウスを避難所などへ利用することを目的として、本市と株式会社カンバーランド・ジャパン及びナーシングホーム&リゾート株式会社との3者による災害協定を締結しております。

これにより災害時に、特に配慮が必要な妊婦や乳幼児などが、より安全・安心に避難できる体制整備に努めて参ります。

○ アウトドアアクティビティ拠点施設整備について

道の駅「象潟ねむの丘」での拠点施設整備の進捗状況ですが、敷地の造成工事を7月27日に発注しております。

主な工事内容は、地盤の切土や盛土、駐車場舗装の打ち換え工事であります。工事期間中においては、駐車場の一部が使用できないため、利用者の皆様へご不便をおかけすることになりますが、安全に十分に留意し、施工して参ります。

また、6月定例会の市政報告でも述べましたが、施設建設工事費8億1千万円と、これに付帯する費用に係る補正予算案を今定例会に提出しております。

○ スケートボード施設の整備について

本整備事業は、特殊な業務であることから、設計・施工を一括して発注しております。

また、設計業務に当たっては、利用者の目線に立ちながら、意見や要望を可能な限り設計に反映させるために、受注業者と、数多くのスケートボード施設整備に関わってきた専門家の方、および地元のスケートボード愛好者を交えたワークショップを7月8日に開催しました。

9月中には、本格的に着工する予定ですが、あわせて安全の確保や管理のあり方について、今後も地元のスケートボード愛好者と協議しながら、多くの方々に喜ばれるスケートボードパークの整備を目指して参ります。

○ 象潟B&G海洋センター大規模改修工事について

8月12日に着工した大規模改修工事のため、象潟B&G海洋センターは休館としており、利用者の皆様にはご迷惑をおかけしておりますが、12月からの開館予定ですのでご理解をお願いいたします。

主な工事内容は、屋根・外壁の補修、プール場内と更衣室の床面張り替え、プール缶体の塗装、施設内照明設備のLED化などです。

なお、この改修工事には、象潟B&G海洋センターがB&G財団から10年連続で特A評価を受けた特別措置として、3,000万円の助成を受けることが決定しております。

○ 先進的海洋センター整備事業について

今年度の一般会計補正予算（第3号）に、老朽化した竹嶋潟のカヌー・カヤック艇庫の建替えを核とした、竹嶋潟エリアの整備構想を作成するため、「先進

的海洋センター整備構想支援業務」を、専門的知見を有する事業者に委託するための関係予算を計上いたしました。

その上で、受託事業者が作成した整備プラン案を基に整備構想を作り上げ、採択の難易度は高いものの、助成金額並びに助成率が極めて高い、B & G財団の新規助成事業「先進的海洋センター整備事業」への企画提案申請を行っております。

しかしながら、7月29日にB & G財団から一次審査の結果が通知され、残念ながら採択には至りませんでした。

財団側から通知された落選理由では、官民連携の仕組みや、初心者から上級者まで親しめる施設であることなどが高く評価された一方、ソフトウェアについて、年間を通した海との共生プログラムの先進的要素が低く、計画が不十分とのコメントが付記されておりました。

当該助成事業の申請に当たっては、事業の趣旨や要件を分析した上で、先進性や実現可能性も高い企画提案書として申請していただけない、非常に残念な結果と捉えております。

最終選考では1件のみが採択されるとのことで、その結果はまだ公表されておりませんが、今後それらも参考にしながら、今回作成した整備構想をもとに、できるだけ有利な補助事業を活用するなどして、艇庫の建替えを早期に具体化したいと考えております。

○ 子ども家庭総合支援拠点の開設と子育て支援課の移転について

10月1日より子育て支援課内に、家庭における適正な児童養育、その他家庭児童福祉の向上を図ることを目的に「子ども家庭総合支援拠点」を設置いたします。これに伴い、子育て支援課は9月20日に仁賀保庁舎から総合福祉交流センター スマイルに移転します。

あわせて、10月1日には県が運営する「児童家庭支援センター」がスマイル内に開設されます。これらにより、市民が相談しやすい環境を整えるとともに、今後は「子ども家庭総合支援拠点」と「児童家庭支援センター」が連携して、多様な問題に早期に対応し必要な支援・指導に繋がるよう取り組んで参ります。

なお、10月1日は開設会場であるスマイルにて、県主催の「オープニングセレモニー」と「記念イベント」が開催される予定であります。

○ 農産物の状況について

今年の稲作については、田植え後に低温・曇天の日が続いたため、生育は若干遅れていましたが、6月は天候に恵まれ、7月以降は順調に生育している状況となっております。出穂は例年よりやや早く、草丈の高い状態からの倒伏が、やや懸念されております。

現在、病害虫の発生は見られませんが、今後、カメムシ類の発生が予想されており、被害について懸念されております。

一方、野菜については、春先の好天が続いたため順調な生育となり、出荷量は前年より増加しております。

花きについても、春から順調に推移しており、小菊・りんどうの出荷は、8月中旬に最盛期を迎えております。

○ 一次産業支援事業について

コロナ禍の長期化及び世界情勢の大きな変化によって、農業・漁業の分野では、価格下落、原油高、物価高の影響を受け、安定的な経営が困難な状況にあります。

国や県でも各種の対策を講じていますが、本市としても独自の対策として、農業及び漁業の収入が50万円以上の方々を対象とした支援のほか、燃油価格の高騰の影響を大きく受ける漁業経営者を対象とした支援について、関係する補正予算案を今定例会に提出しております。

○ ツキノワグマの捕獲について

6月以降、クマの目撃情報が多数寄せられ、市内数箇所に捕獲用の檻を設置したところ、竹嶋湯南東の林内で、6月21日にツキノワグマ成獣1頭を捕獲・駆除しております。

その後も住宅地付近での目撃情報が寄せられていることから、市民への注意喚起を継続するとともに、にかほ幹部交番、消防署、および猟友会と連携し、情報共有やパトロールを実施しております。

今後は、緩衝地帯を設けるなど、野生動物の出没抑制の環境整備に努めて参ります。

○ 「トキとの共生を目指す里地」の選定について

8月5日、環境省から「放鳥は行わないものの、飛来したトキが生息できる環境整備を進める地域（トキとの共生を目指す里地）」として、本市が選定されました。

これは、佐渡に定着しているトキが、本州等においても定着できるよう、環境省と自治体が連携しながら、トキと共生する里地づくりを推進するものであります。

本市の自然環境と環境保全型農業への取り組み等が評価されたものであり、今後、佐渡市および今回選定された地域等と連携して、生物多様性に配慮したトキと共生する里地づくりに取り組んで参ります。

○ 各種イベントの開催状況について

7月9日、10日に観光拠点センターにかほっと協議会による「にかほっと夏まつり」が、道の駅「象潟ねむの丘」で開催され、キッズダンスや超神ネイガーショーなどのイベントを実施し、大変好評を得ました。

16日には、2年ぶりに道の駅象潟「ねむの丘」を会場に天然岩ガキの炭火焼きをメインとした「にかほグルメマーケット」が開催され、約4,000人の観光客や市民の来場で賑わいました。

8月20日には、象潟海水浴場を会場に「第72回にかほ市花火大会」が3年ぶりに開催され、約3,000発の花火が夜空を彩り、観光客や市民へ感動と活力を与えてくれたものと思っております。

9月23日には、アウトドアアクティビティへの理解と普及を深めるためのイベント「にかほアウトドア体験塾」を株式会社モンベルと協同で、竹嶋潟周辺を会場に開催いたします。内容は、カヌー、カヤック、e-バイクやテントの設営体験などのほか、アウトドアと相性のよい「コーヒーセミナー」をUCC上島珈琲の協力により、実施する予定です。

9月25日には、同じく竹嶋潟周辺を会場に、県内でカヌー体験等を開催しているNPO法人秋田パドラーズによる「トヨタ ソーシャル フェス 2022」が開催されます。水に親しみ、白瀬轟を通じて南極を学ぶ機会や、カヌー体験などを開催する予定であります。

このように、竹嶋潟周辺においては、スケートボードパークの整備、艇庫の

改修など、アウトドアアクティビティを体験するエリア整備も計画していることから、今後もこうしたイベント等を随時開催しながら、アウトドアアクティビティの普及と市民の健康増進、誘客促進に努めて参ります。

○ 市内スポーツイベントについて

生涯スポーツや競技スポーツ推進の一環として今年度も各種スポーツイベントと開催しております。

7月3日に、象潟体育館を会場に秋田県車椅子バスケットボールクラブ所属で、男子U23日本代表にも選ばれた、山崎 泰誠（やまざき たいせい）選手などを招き、車いすバスケットボール体験会を開催しました。市内小学生が参加し、全日本レベルのプレーに触れる貴重な機会となりました。

7月9日には、日本トップリーグ連携機構とにかほ市が主催する、地域密着型のスポーツイベント「ボールゲームフェスタ」をエスパーク★にかほで開催しました。

元ラグビー日本代表の 大野均（おおの ひとし）選手、元女子バスケットボール日本代表の 三木 聖美（みき さとみ）選手をはじめ、9名のトップアスリートを講師にお迎えし、園児から小学6年生まで約150人の子どもたちが参加し、各スポーツ種目の魅力に触れる貴重な機会となりました。

7月23日には、東京2020オリンピック・パラリンピック ホストタウンのリベリア共和国と交流会を行っております。

今回は、JICA（ジャイカ）リベリアフィールドオフィスの協力により、金浦中学校武道場とリベリアのスポーツ施設をオンラインで結び、リベリア共和国柔道連盟から約10人、本市からは、にかほ市柔道連盟、仁賀保高校、金浦中学校柔道部、金浦柔道スポーツ少年団など約30人が参加し、柔道をテーマに交流を行いました。交流会には、にかほ市ホストタウンサポーターの協力を頂き、スポーツを通じた国際理解や多様性、共存社会の理解に繋がったものと思っております。

9月25日には、ブラウブリッツ秋田との健幸プロジェクト連携事業の一環として、ブラウブリッツ秋田のホームゲームを観戦しながら、試合前のピッチで健康体操などを行う「健康バスツアー」の2回目が開催されます。

今回は、にかほ市民からチアダンス参加者を募集し、当日ブラウブリッツを

応援する企画も新たに行うこととしております。

今後もスポーツイベントを通して、スポーツの習慣化や市民の健康増進に向けた取り組みを推進して参ります。